

東北大学史料館所蔵カール・レーヴィット関係資料について

Text und Erläuterung — Briefe von Karl Löwith mit Briefwechsel zwischen Frau Löwith und Professor Shibata

曾根原 理¹⁾

鈴木 道男²⁾

1. 資料の概要

カール・レーヴィット (Karl Löwith 1897 ~ 1973) はドイツの哲学者である³⁾。レーヴィットはミュンヘンで画家の息子として生まれ、第一世界大戦に志願兵として参加し捕虜となった経験を持つ。1924年にマールブルク大学で研究者として歩み始めるが、ユダヤ系であったため、ナチスから講義と出版を禁止されるなどの迫害をうけた。そのため亡命の道を選び、1936年から東北帝国大学の外国人教師として哲学とドイツ文学を担当した。第二次世界大戦が勃発すると、日本が枢軸国に加わったため、1941年にアメリカにわたり哲学者としての活動を続ける。1952年にドイツに帰国しハイデルベルク大学教授となり、1964年の退官の後も、逝去までハイデルベルクで過ごした。

一般的にはレーヴィットは、ハイデッガーの弟子として知られている。ハイデッガーは国家社会主義ドイツ労働者党 (NSDAP) の黨員となり、フライブルク大学学長として大学のナチス化に進んで協力したことが知られているが、レーヴィット自身はナチス時代に完全にその影響から脱したとされる。

レーヴィットの主要な研究テーマは、キリスト教哲学の崩壊 (また世俗化) で、歴史哲学を通じてのキリスト教哲学における救済や実存を論じている。日本で教鞭をとったこともあるため、『ヨーロッパのニヒリズム』(柴田治三郎訳、筑摩選書、1948年)、『ヘーゲルからニーチェへ』(同、岩波現代叢書、1952-1953年)、『ニーチェの哲学』(同、岩波現代叢書、1960年)、『ナチズムと私の生活』(秋間実訳、法政大学出版局、1990年)、『ある反時代的考察』(中村・永沼訳、法政大学出版局、1992年)など、16本以上の著作について翻訳が刊行されている。ただし日本語版の著作全集はまだ出版されていない。

今回紹介する「カール・レーヴィット関係資料」18点は、東北大学史料館所蔵の「柴田治三郎文書」に含まれている。旧蔵者の柴田治三郎 (1909 ~ 1998) は、青森市出身 (旧制弘前高校卒業) のドイツ文学研究者である。昭和11年 (1936) に東北帝国大学法文学部を卒業後、同大学の副手・助手、北海道帝国大学予科教授などを経て、昭和21年9月に東北帝国大学法文学部助教授として仙台に戻り、昭和26年に教授に昇任し、ドイツ文学研究室を主宰した。専門はドイツ文学だが、ゲーテやシラー、さらにロシア文学、北欧文学に至る幅広い業績を持つ。昭和38年には「体験と表現—フリードリッヒ・ヘッベル研究—」で博士号を取得している。昭和47年 (1972) に東北大学を定年退官した。

柴田文書は、柴田が逝去した平成10年 (1998) の12月に、中村志朗名誉教授の斡旋で史料館に寄贈された745点から成る。内容的には大きく3つに分かれ、主に (1) 柴田の前任者である小宮豊隆 (1884 ~ 1966) とその妻の小宮恒子 (1893 ~ 1992) の関連資料、(2) 東北帝国大学で哲学・ドイツ文学を講じたカール・レーヴィットの関係資料、(3) 柴田が兄事していた河野與一 (1896 ~ 1984) と妻の河野多麻 (1895 ~ 1985) の関連資料より成る (その

他が1点)。小宮や河野もレーヴィットと交流があり、柴田文書にはそれを示す文書も含まれている⁴⁾。詳細については、史料館ホームページの「個人・関連団体文書目録」を参照願いたい。
<http://www.archives.tohoku.ac.jp/siryu-kojin-index.html>

以下に紹介する「カール・レーヴィット関係資料」の内訳は次のとおりである。

資料番号	表題	作成年代	作成者	数量	内容	備考
柴田 3 1	[レーヴィット書簡]	昭和12年 7月15日	レーイビット	葉書 1枚	河野與一宛(トーマス・マン(の本)借用への感謝、シャルル・モーラス『知識人の未来』購入の依頼、梅雨の湿気に苦しんだことなど)	
柴田 3 2	[レーヴィット書簡]	昭和14年 4月4日	K. Löewith	葉書 1枚	河野與一宛(東京方面へ旅行するため、ホテルの部屋の予約を依頼)	
柴田 3 3	[レーヴィット書簡]	昭和14年 8月28日	レーヴィット	便箋 1枚	河野與一宛(独ソ不可侵条約締結に触発され披瀝された世界情勢について、独ソの統治方式は同じなので提携は驚くに値しないと記す)	茶封筒入り、切手なし、「長野県軽井沢」の「レーヴィット」から東京の河野宛
柴田 3 4	[レーヴィット書簡]	[年不明] 12月26日	K. Löewith	葉書 1枚	河野與一宛(新年の挨拶)	
柴田 3 5	[レーヴィット書簡]	昭和38年 10月28日	Karl Loewith	便箋 1枚	Yoichi Kono 宛(3週間のギリシア旅行から戻ったところで、ハイデルベルグから転送された絵葉書拝受)	
柴田 3 6	[レーヴィット夫人書簡]	[昭和48年 7月23日]	[Ada Löewith]	カード 1枚	Prof. J. Shibata 宛(レーヴィット訃報)	
柴田 3 7	[柴田治三郎書簡コピー]	昭和53年 2月1日	J. Shibata	3枚	Frau Professor Löwith 宛(レーヴィット著『ヘーゲルからニーチェへ』翻訳に関する印税などの報告)	
柴田 3 8	[レーヴィット夫人書簡]	昭和53年 2月12日	Ada Loewith	ミニ レター	Herr Shibata 宛(レーヴィット全集編集のため、翻訳を出した日本の出版社に対する問い合わせの依頼)	
柴田 3 9	[柴田治三郎書簡コピー]	昭和53年 4月1日	J. Shibata	3枚	Frau Professor Löwith 宛(3-8に対する返事として、日本の出版社の事情などを説明)	
柴田 3 10	[レーヴィット夫人書簡]	昭和55年 3月3日	Ada Löewith	ミニ レター	Herr Shibata 宛(贈られたカレンダーへの感謝、近況報告、H.G. ガダマー80歳の誕生日を祝って開かれたコロキウム情報など)	
柴田 3 11	[柴田治三郎書簡控]	昭和56年 3月6日	J. Shibata	便箋 2枚	Frau Löwith 宛(柴田蔵書の中のレーヴィット著『ヨーロッパのニヒリズム』送付の報告、レーヴィット全集刊行への祝辞、岩波書店より刊行された『モーツァルトの手紙』に関する報告、仙台の変化への慨嘆など)	
柴田 3 12	カール・レーヴィット写真	昭和16年	(不明)	1枚	—	白黒 15.9 × 11.6cm、黒紙台紙 24.3 × 17.9cm、写真裏面鉛筆書き入れ「昭和十六年仙台ニテ 四十五才」
柴田 3 13	レーヴィット夫人写真	—	—	1枚	—	白黒 7.1 × 5.4cm、写真裏に「レイヴィット夫人」の青インク書き入れ
柴田 3 14	レーヴィット写真	昭和40年	—	1枚	—	白黒 7.7 × 11.2cm、写真裏に「1965年スイスカローナ」の青インク書き入れ
柴田 3 15	レーヴィット夫妻写真	—	—	1枚	—	白黒 7.7 × 11.2cm
柴田 3 16	レーヴィット等写真	[昭和38年]	—	1枚	—	白黒 7.7 × 11.2cm、写真裏に「Im Museumsrestaurant Hauptstrasse in Heidelberg」の青インク書き入れ、他の2人は夫人と柴田
柴田 3 17	レーヴィット旧蔵ジャケット	—	—	1点	—	
柴田 3 18	レーヴィット旧蔵スパッツ	—	—	1組	—	

2. 資料の内容

柴田 3-1 レーヴィット書簡 河野與一宛⁵⁾

(翻刻)

15. Juli

Takayama No. 3

Lieber Herr Kono,

Gestern erhielt ich aus Sendai den Th. Mann. Vielen Dank dafür. Im September bekommen⁶⁾ Sie ihn wieder. *Auch*⁷⁾ hin ist es noch immer sehr regnerisch u. schwül + schrecklich feucht, aber Heute scheint die Regenzeit zu Ende zu gehen.

Noch ein Bücherwunsch fiel mir ein:wenn Sie etwa einmal von Charles Maurras „L’avenir de l’intelligence“⁸⁾ finden, so kaufen Sie es bitte für mich.

Was tun Sie eigentlich im Sommer gegen das Verschimmeln der Bücher?

Die wenigen Bücher, welche ich nach Takayama mitgenommen habe, lösen sich piano piano (dandan) in ihre Urbestandteile auf!

Es grüsst Sie herzlich

Ihr
Karl Löwith

(翻訳)

7月15日 高山⁹⁾ 第3信

拝啓河野様

昨日仙台からお送りいただいたトーマス・マンの本を拝受いたしました。ありがとうございます。9月には返却申し上げます。これからもまだ、とても雨がちでうっとうしく+¹⁰⁾ 恐ろしく湿った天気が続きますが、今日は、梅雨も終わりに近づく気配を感じております。

もう一冊本のお願いを思いつきました。もし、シャルル・モラスの『知性の将来』¹¹⁾ を見かけるようなことがありましたら、私のために買っておいってくださいませよう。

夏場に、本の黴対策はいったいどうしたらいいのでしょうか。高山に持参いたしました本が何冊か、徐々に徐々に¹²⁾ (段々)¹³⁾ 原成分に分解しようとしています。

敬具

カール・レーヴィット

柴田 3-2 レーヴィット書簡 河野與一宛¹⁴⁾

(翻刻)

4. 4. 39

Lieber Herr Kono,

am Freitag (7.ten) werde ich mit dem Zug über Mito um 5.²⁷⁾ nachmittag in Ueno sein. Bitte seien

Sie so freundlich mir im Sanno ein Zimmer (am besten wieder No. 233 oder 239) zu bestellen. Ich komme allein + werde einige Tage in Tokyo-Yokohama-Kamakura, nach 2 Jahren Buchschreiberei, der Vergnügungssucht nachgehen. Haben Sie auch etwas Zeit u. Lust *dazu*? ich hoffe ja — ! Auf Wiedersehen!

K. Löwith

(翻訳)

39年4月4日

拝啓河野様

金曜日(7日)に汽車で水戸経由5時27分に上野に参ります。恐れ入りますが、山王ホテルの部屋(できれば今度も233号室か239号室)を取って頂けませんでしょうか。私は単身で、東京・横浜・鎌倉で何日か、2年間著作に勤しんだ骨休みに、思う存分娯楽に興じたいと思っております。貴殿もお付き合い願えませんか。よいお返事をお待ちします。ではまた。

敬具

K. レーヴィット

柴田3-3 レーヴィット 河野與一宛¹⁵⁾

(翻刻)

Karuizawa 1319

28. 8. 39

Lieber Herr Kono,

Herzlichen Dank für Ihre Karte und den Eisenbahn Fahrplan! Heute kam auch die freundliche Nachricht von Ihrem Herrn Bruder. Was sagen Sie zu meinem geliebten „Führer“?!!!

Einige wenige kluge Leute (z. B. Rauschnig, von dessen Buch ich zu Ihnen sprach) haben das schon lange voraus gesagt – und auch die deutsch-italenische „Freundschaft“ wird nicht ewig dauern! Ich hoffe, dass es in Japan eine heilsame Erfahrung ist zu erkennen, dass keine europäische Nation gerade „weltanschaulich“ so skrupellos ist wie das 3. Reich. Im Grunde ist das Bündnis mit Stalin sehr passend – denn die Regierungsmethoden sind in Deutschland + Russland dieselben – nur die Färbung ist verschieden. Ich fürchte dass Herr Takasima unangehene Tage haben wird und Herr Saito wird wohl seine Reise verschieben müssen. Kennen Sie den Ausdruck, dass solche Ereignisse „einen Strich durch die Rechnung machen“?

Mündlich mehr von Ihnen K. Löwith

P. S. ich lege die Liste der Bücher bei, die ich nicht in Sendai verkaufen konnte. Vielleicht wissen Sie in Tokyo Antiquariate, welche dafür Interesse haben? Die Preise sollen nicht absolute sein, sondern nur ungefähre. Wenn ein Antiquar alles nimmt gebe ich es billiger ab.

(翻訳)

軽井沢 1319

1939年¹⁶⁾8月28日

拝啓河野様

カードと鉄道の時刻表ありがとうございました！本日、弟君からも慇懃なお便りが届きました。貴殿は私の最愛の「総統閣下」についてどうお考えですか？!!! ほんの何人かの賢明な人たち（例えばラウシュニング。その本については、お話したことがありました。）はもうずっと前にこうなることを言っていました—そしてドイツ・イタリア間の友好関係も永遠に続くわけではないでしょう。ヨーロッパには、まさに「世界観」の点で第三帝国ほど厚顔無恥な国家はないということが日本において認識されるようになり、それが役に立つ経験となることを望んでおります。根本からして、スターリンとの同盟は極めて似合いのものです。—といいますのは、ドイツ+ロシアにおける統治方式は同じもので—ただ色づけが違っているだけだからです。

高島さんが不愉快な日々を過ごされはしないか、そして斉藤さんがおそらく旅行を延期なさらざるを得なくなるのではなからうかと心配です。このような出来事が「請求書を棒引きにする」¹⁷⁾という表現をご存知でしょうか。

委細はお会いしてお聞きしたく存じます。

敬具

K. レーヴィット

追伸 仙台で売却できなかった本のリストを同封いたします。もしや、東京でこれに興味を示すような古書店をご存知ありませんか。値段はどうしても、というのではなく、凡そのものです。全部一括して買う古本屋があれば、もっと安く手放します。

柴田 3-4 レーヴィット 河野與一宛

(翻刻)

Lieber Herr Kono,
leider kann ich nicht mit Tusche schöne Hiraganazeichen malen. Also nehmen Sie und Ihre Frau bitte vorlieb mit diesem etwas prosaischen Omedeto zu Neujahr!

Auf Wiedersehen in Sendai

Ihr

K. Löwith

(翻訳)

拝啓河野様

残念ながら墨では綺麗なひらがなの文字を描けません。ですから、貴殿と奥様にはこの少々散文的な新年オメデトー〔原文 Omedeto〕で我慢してさせていただきますよう。

仙台での再会を期して

敬具

K. レーヴィット

柴田 3-5 レーヴィット 河野與一宛

(翻刻)

Carona s/Lugano 28. X.

【PHILOSOPHISCHES SEMINAR

DER UNIVERSITÄT HEIDELBERG

SEMINARIENHAUS AUGUSTINERGASSE 15] ¹⁸⁾

Lieber Herr Kono,

eben erhielt ich Ihr Venedigkarte aus Heidelberg nachgeschickt. Wir waren 3 Wochen in Griechenland, Schiffsreise von Insel zu Insel. Als wir gestern von Venedig zurück kamen, sagte mir die Post, dass ein Telegramm ~~gekommen~~ während unsern Abwesenheit gekommen war. Das war vermutlich das Ihre aus Mailand. Sehr Schade! Auch Shibata hatte kein Glück: er kam unangemeldet nach Carona gerade am Abend vor unserer Abreise nach Griechenland! Wir wünschen Ihnen u. Ihrer Frau schöne Tage in Rom. Bleiben Sie gesund. Ende dieser Woche fahren wir zurück nach Heidelberg.

Herzliche Grüße

Ihr Karl Löwith

(翻訳)

カローナ ルガーノにて投函

哲学研究室

ハイデルベルク大学

アウグスティーナーガッセ 15

拝啓 河野様、

たった今、ハイデルベルクから転送されてきた貴殿のヴェネツィアの絵葉書拝受しました。私どもは3週間ギリシャで島巡りの船旅をしておりました。昨日ヴェネツィアから戻ると、郵便局がいうには不在中に電報が1通来ていたとのこと。おそらく貴殿のミラノからのものだったのでしょうか。残念至極。柴田も運がありませんでした。といいますのは、柴田は連絡なしで、ちょうど私どもがギリシャに発つ前の晩にカローナに来たのです。奥方ともども、ローマでよ

い日々をお過ごしください。お達者で。今週末にはハイデルベルクに戻ります。

敬具

カール・レーヴィット

柴田 3-6 レーヴィット死亡広告 (レーヴィット未亡人による)

(翻刻)

K A R L L Ö W I T H

Professor der Philosophie
an der Heidelberger Universität

*9. 1. 1897 †24. 5. 1973

A D A L Ö W I T H

Heidelberg
Wilckenstraße 8

Die Beisetzung findet am Mittwoch, 30. Mai 1973 um
13.00 Uhr auf dem Friedhof Heidelberg-Neuenheim statt.

Von Kranzspenden bitte abzusehen.

(翻訳)

カール・レーヴィット

ハイデルベルク大学
哲学教授

*1987年9月1日 †1973年5月24日

アーダ・レーヴィット

ハイデルベルク
ヴィルケン通り 8

埋葬は1973年5月30日
13.00時 ハイデルベルク - ノイエンハイム墓地にて挙行政致します。

花輪のお気遣い下さいませんよう。

柴田 3-7 柴田治三郎書簡 昭和 53 年 2 月 1 日レーヴィット未亡人宛¹⁹⁾

(翻刻)

Sendai 1.2.1978.

Verehrte Frau Professor Löwith,

Hiermit möchte ich Ihnen über die Bezahlung von Gebrauch des Autorrechts des Buchs „Von Hegel zu Nietzsche“ erklären. Die Übersetzung des Buchs ins Japanische wurde in 2. Halbbänden bei Iwanami-Shoten verlegt, und zwar der 1. Halbband im Jahr 1952, der 2. im nächsten Jahre. Der Verlag bezahlte mir, dem Übersetzer, als Honorar jeweils 15% vom Preis von gedruckten Exemplaren. Unter Verleger und Übersetzer wurde vereinbart, daß der Übersetzer aus seinem Honorar eine passende Summe in irgendeiner Form dem Autor bezahlen soll, denn die Geldsendung nach Ausländer war damals in der Nachkriegszeit ziemlich schwierig. Ich habe also auf Wunsch Herrn Professors Löwith mehrere Male japanische Kunstsachen, nämlich Reproduktionen von Sesshu, Tessai u. s. w. schicken lassen. (Bei der Auswahl half mir damals Herr Sawayanagi.) Indessen wurde auch die Auswahl der zu schickenden Sachen schwierig. Als Herr Professor im Herbst des Jahres 1958 nach Japan kam, fragte ich ihn, auf welche Weise ich ihm weiter bezahlen sollte. Herr Professor antwortete darauf, daß ich schon genug bezahlt hätte und nicht mehr dafür zu sorgen brauchte. Und er fügte hinzu, daß wir etwaige weitere Übersetzungen anderer Bücher betreffend solche Sache (nämlich die des Übersetzungsrechts) geschäftsmäßig den Verlegern überlassen sollten. Ich habe sein gütiges Angebot mit vielem Dank angenommen, und mich seitdem bis jetzt fest daran gehalten. Seinerseits hat er seither diese Frage nie erwähnt.

Nun aber, da Herr Professor nicht mehr ist, wird alles Recht betreffs Autorschaft seiner Bücher auf Sie, gnädige Frau Professor, übergegangen sein. Ich sollte schon zu diesem Zeitpunkt darüber klar geworden sein, daß ich mich nicht mehr auf sein Wohlwollen habe verlassen sollen. Dazu war ich aber an seine Gütigkeit allzu gewohnt und kam nicht zum Bewußtsein, daß ich seit 1973 Ihnen Schuldig bin. Deswegen muß ich Sie, gnädige Frau Professor ergebenst um Verzeihung bitten.

Wie oben geschrieben bekomme ich, als Übersetzer des Buchs „Von Hegel zu Nietzsche“, 15% des Preises der jeweils gedruckten Exemplare. Sonst bekomme ich aber in der Regel 10%. Darum denke ich, daß dem Besitzer des Autorrechts 5% zukommt, soweit es die Übersetzung des Hegel-Nietzsche-Buchs betrifft. Wenn Sie damit einverstanden sind, so werde ich Ihnen die entsprechende Summe Geld aus meinem schon eingegangenen Honorar für die seit Mai 1973 gedruckten Exemplare senden. Und was die von jetzt an zu druckenden Exemplare betrifft, möchte ich die ganze Sache dem Iwanami Verlag überlassen.

Seit Mai 1973 bis Jetzt sind vom ersten Halbband 6016 Exemplare und vom zweiten 5069 Exemplare gedruckt worden, und ich habe dafür im Ganzen 1,186,086 Yen (10% Steuer reduziert) bekommen. Daraus werde ich Ihnen also 395,362 Yen schicken, sobald Sie damit einverstanden sind und ich soviel Geld erschwingen kann.

Ich warte auf Ihre gütige Antwort und wünsche Ihnen alles Gute, vor allem frohe Gesundheit! Wohnen Sie noch immer mit einer Studentin oder ganz allein? Ich bin jetzt fast 70 Jahre alt und lebe mit der ebenso alten Frau allein. Drei Kinder leben und treiben *getrennt* eigenes Leben in Yamagata, Hiroshima und Yokohama. Ich mußte im letzten Jahre über 2 Monate in einem Krankenhaus „das Bett hüten“. Jetzt bin ich wieder leidlich gesund, habe aber ein vages Gefühl, daß *noch nicht* alles in Ordnung sei. Meine Frau ist fast gesund, abgesehen daß sie in der Dunkelheit etwas taumelt wegen zu niedrigen Blutdrucks. Die Stadt Sendai hat sich während der letzten etwa 15 Jahre ganz verändert. Wenn man von der Höhe die Stadt überblickt, wundert man sich, ob es eine japanische Stadt sei. Gewiß nicht eine europäische, weil es hier nichts Einheitliches gibt, alles kunterbunt, ein Wirrwarr ist.

Inzwischen habe ich von Ihnen eine schöne Ansichtspostkarte erhalten. Haben Sie vielen Dank dafür! Ich habe 1963 bei Holländer Hof und Hackteufel in der Nähe der Alten Brücke einige Tage übernachtet, und erinnere mich noch gut an diese Gegend. Es freut mich zu wissen, daß japanische Akademiker Sie dann und wann besuchen. Ich kenne leider Herrn Sato aus Kobe und Herrn Morinaga aus Tokyo nicht.

Nochmals wünsche ich Ihnen von Herzen alles Gute und bitte um Entschuldigung wegen meiner Unterlassungssünde.

Ihr ergebenster

J. Shibata

(翻訳)

謹啓 レーヴィット教授夫人、

ここに書籍『ヘーゲルからニーチェへ』の著作権適用による報酬についてご報告申し上げたく存じます。この本の日本語訳は二巻本として、正確には第1巻は1952年に、第2巻はその翌年に岩波書店から出版されました。出版社は翻訳者である小生に、印刷した部数につき価格の15パーセントを謝礼として支払いました。当時は戦後の時期で、外国への送金がかかなり困難であったため、出版社と翻訳者の間では、翻訳者が報酬の中から適切な金額を何らかの形で著者に支払うべきことを取り決めております。それゆえ小生はレーヴィット教授のご意向に沿って、いくつかの日本の美術骨董品、即ち雪舟や鉄斎の複製等をお送りするようにさせました。(その選択には、当時沢柳さんがお手伝いくださいました。) その間に、お送りするものの選択も困難になってまいりました。教授が1958年の秋に来日された折、この先いかなる方法で教授にお支払いを続けるべきか、教授にお尋ねしました。教授はそれに答えて、小生はもう十分に支払っており、もはや気遣いには及ばないとおっしゃいました。さらに、他の本をこれから翻訳することがあれば、こうした事柄(即ち翻訳権に関する事)については、事務的に出版社に任せるべきであるとも、加えておっしゃいました。小生は教授のご親切な申し出を大変ありがたくお受けし、以来今日までそれを堅く守ってきました。教授も、あれからこの問題に言及されることはありませんでした。

しかし教授が他界された今は、教授の本の著作に関する権利の一切は教授夫人、奥様に移行

していることになりましょう。既にその時点で、小生はもはや教授のご好意に甘えるべきではないことをはっきり認識しておくべきでした。ところが同時にまた小生は、教授のご親切に浸りきってしまったあまり、1973年以來は奥様に負債があることを失念致しておりました。教授夫人には衷心よりご宥恕をお願い申し上げる所以であります。

上に述べましたとおり、小生は『ヘーゲルからニーチェへ』の本の訳者として、印刷された部数につき、その価格の15%を頂きました。他の場合、通常小生は10%を受けております。従いまして、小生が考えますに、著作権所有者にはあのヘーゲル・ニーチェの本に関します限り、5%が帰属することになります。もしも奥様がご了解していただけますれば、小生は1973年5月以來出版された部数分として小生が受けた報酬から、相当額を送金させていただきます。これから発行されるべき部数分に関しては、すべて岩波書店に委任させていただくこととしたいと存じます。

1973年5月から今日まで、第1巻は6016部、第2巻は5069部印刷されております。その分として小生は計1,186,086円(10%の税を差し引かれて)頂いております。この中から、奥様のご承諾が得られて、お金の用意ができ次第、小生は395,362円をお送りしたく存じます。

奥様の寛大なるご返答をお待ちいたし、そしてお元気で、何よりもお達者でお過ごしく下さいますよう祈念致しております。まだ女学生と一緒に暮らしてでしょうか、それともお一人でしょうか。私は70歳になろうとしており、同年代の妻と二人だけで暮らしております。三人の子供たちは独立して山形と広島と横浜で別々に暮らしております。小生は昨年2ヶ月以上病院で「寝たきり」でおりました。今は健康をほぼ回復しましたが、まだ完全ではないという漠たる感覚を抱いております。妻は、低血圧のせいで暗くなると少々よろよろするほかは、概ね元気でおります。仙台のまちはこの15年ですっかり様変わりしてしまいました。高いところから市街を見渡すと、これが日本の都市かと驚かされます。とはいえここにはなんら統一の取れたところがなく、あらゆるものが乱雑で混沌としているので、ヨーロッパの市街でないことだけは確かです。

そうこうしているうちに、奥様から美しい絵葉書を頂きました。ありがとうございます。小生は1963年にホレンダーホーフとアルトブリュッケの近くのハクトイフェルに何日か宿泊したことがあり、その付近のことはまだよく覚えております。日本の大学関係者がときおり奥様を尋ねているとお聞きしてうれしく存じます。ただ、神戸のサトウ氏と東京のモリナガ氏は残念ながら存じ上げておりません。

かさねて衷心より奥様のご健康を祈念し、私の怠慢の罪をお詫び申し上げます。

謹白
柴田治三郎

柴田 3-8 レーヴィット夫人 昭和 53 年 2 月 12 日柴田宛 (タイプ稿)²⁰⁾

(翻刻)

Heidelberg, 12. 2. 78

Lieber Herr Shibata,

ich danke Ihnen vielmals für Ihren langen und inhaltreichen Brief – so habe ich einmal etwas von Ihnen und Ihrer Familie gehört, was mich sehr freute.

Bitte machen Sie sich wegen des Verlags Iwanami gar keine Gedanken oder gar Sorgen! Es gibt einige ausländische Verlage, von denen ich seit dem Tod meines lieben Mannes keine Abrechnungen mehr bekommen habe – wahrscheinlich denken sie, dass sie nicht abrechnen brauchen, da niemand in seine Rechte eingetreten ist. Früher hatte mir der Iwanami-Verlag immer zum Neujahr eine Gratulation geschickt, aber nicht mehr in den letzten Jahren. Da ich wusste, dass Herr Kono, mit dem ich freundschaftlich verbunden bin, dort arbeitet, habe ich einmal angefragt. Ich erinnere mich von früher, dass mein Mann die Abrechnung mit Iwanami Ihnen überlassen hatte und natürlich bin ich darüber ganz zufrieden und denke garnicht daran, irgendetwas zu ändern. Ich bin beruhigt, dass alles weiter in Ordnung geht und so soll es natürlich bleiben. Bitte machen Sie sich also überhaupt keine Gedanken deswegen – ich wollte nicht, dass Sie überhaupt etwas von meiner Anfrage hörten.

Aber da wir nun über diese Sachen uns aussprechen, möchte ich doch gern noch etwas fragen. Es gibt noch einige Verlage in Japan, die Sie sicherlich auch kennen, die aber nie eine Abrechnung zu uns geschickt haben. Hoffentlich bekommen Sie von dort Ihre Übersetzungshonorare? Ich sehe in der soeben fertig gestellten ausführlichen Bibliograph. der sämtlichen Werke z. B. : Miraisha (Tokyo), der ziemlich viel veröffentlicht hat, ferner: Risosha (Tokyo), Chikuma (Tokyo) und Sogensha (Tokyo) haben nur kleine Sachen. Ich habe Ihnen diese Bibliographie auch schicken lassen, lieber Herr Shibata, weil es sehr erfreulich ist, dass diese wichtige und sorgfältige Arbeit zu den Werken von Karl Löwith gemacht worden ist. Im Jahr ist endlich die neue Ausgabe (bei Felix Meiner) von „Von Hegel zu Nietzsche“ erscheinen, wovon ich Ihnen auch schon berichtet hatte. Jetzt gibt es den Plan – er ist aber noch nicht ganz reif – eine Gesamtausgabe aller Veröffentlichungen zu machen deshalb muss ich viele Anfragen wegen der Autorenrechte usw. beantworten. Man machte mich aufmerksam, dass manche ausländische Verlage einfach drucken und man hört niemals etwas. Bitte glauben Sie nicht, das nur die japanischen Verlage sich so verhalten.

Es tut mir aufrichtig leid, dass Sie sich die Mühe gemacht haben, genau über die Zahl der Bücher usw. mich zu informieren. Es ist doch selbstverständlich, dass ich alles so mache, wie mein Mann es bestimmt hat. Und ich tue das freudigen Herzens, möchte garnichts ändern.

Auch ich habe, wie Ihre liebe Frau, immer etwas Schwierigkeiten mit den Augen, weil es allerlei kleine Schäden gibt. So kann ich nur guten, grossen Druck lesen – die kleine Schrift meines Mannes macht mir grosse Mühe und ich muss eine Lupe gebrauchen. Nun grüsse ich Sie herzlich und wünsche Ihnen und der Familie, dass es weiter gesundheitlich leidlich gehe.

Alle Tage freue ich mich an dem schönen Kalender.

Herzlich, Ihre

Ada Löwith (直筆署名)

(翻訳)

ハイデルベルク 78年2月12日

拝啓 柴田様

長い、内容の濃い手紙にお礼を申し上げます。あなたとご家族のことをお聞きできてとてもうれしく思います。

岩波書店のせいでの、お気遣いやご心配はまったくご無用に願います。主人が亡くなって以来、決算書を私宛送ってよこさなくなった外国の出版社はいくつかあります。恐らくそうした出版社は、夫の権利を継承しようとする者がいなかったから、決算する必要がないとでも考えているのでしょう。以前、岩波書店は新年に祝辞を送ってきていましたが、近年はもうご無沙汰です。友人としてお付き合い願っている河野さんが岩波で働いているのを知っていましたから、一度問い合わせてみたことがあります。夫が以前、岩波との決算をあなたに委任していたことは覚えていますし、それにまったく異存はなく、なんら変更する意思もありません。これからはすべてきちんとしていくことに、安心しておりますし、当然そうあるべきです。ですから、これに関して気を揉まれるようなことはなさいませんよう。私はそもそも、あなたが多少なりとも私の問い合わせに答えてくださることを望んではおりませんでした。

ただ、私たちがこの件に関してこうしてお話しているのですから、もう少々お聞きしたいことがあります。あなたもきっとご存知の日本の出版社で、私どもに決算書をおくってきたところがないところがまだ何社かあります。そうしたところから、あなたが翻訳の報酬をもらえていればいいのですけれど。私が、つい最近完成したばかりの、著作集の詳細な文献目録を見ましたところでは、例えばかなりたくさん出版した未来社(東京)、それから、小さいものだけ出しているのは理想社(東京)、筑摩(東京)、創元社(東京)といったところでしょうか。この文献目録も柴田さん、あなたに送らせました。カール・レーヴィットの著作に対して、この重要かつ周到な仕事がなされたことはとても喜ばしいことです。これはもうお知らせ済みですが、今年中にとうとう『ヘーゲルからニーチェへ』の新版が(ヘリックス・マイナーから)出ます。

今、まだすっかり準備が整ったわけではありませんが、全出版物の全集を作る計画があって、そのために私は著作権のせいで、問い合わせにたくさん返事をしなければなりません。国外の出版社の中には、安易に出版してそれをさっぱり知らせてこない出版社があるとの忠告を受けています。

日本の出版社だけがそうだとはお考えくさいませんよう。

本に対する支払い等に関して正確に教えてくださるためにお骨折りいただいたことは本当にお気の毒でした。夫が決めたように私も致しますことはもちろんです。よろこんで、なにも変更しないようにしたいと思います。

奥様同様、私も目に少々障害があります。さまざまな、小さな損傷があるものですから。それで、私はきれいな、大きな活字しか読めません。夫の小さな筆跡には苦勞して、ルーペを使わなければなりません。

あなたも、ご家族の皆様も、これからずっと無難に、元気でお過ごしくださいますよう。きれいなカレンダーを毎日喜んでおります。

敬具

アーダ・レーヴィット

柴田 3-9 柴田治三郎 昭和 53 年 4 月 1 日レーヴィット夫人宛²¹⁾

(翻刻)

1 - 3. 4. 78 Sendai

Verehrte Frau Professor Löwith,

Hiermit drücke ich vielen herzlichen Dank für Ihre sehr gütige Antwort auf meinen Brief vom ersten Februar aus. Ich habe Ihren Brief von 12. Februar mit Rührung gelesen, denn ich dachte, daß Ihre großzügige Bestimmung aus Ihrer treuherzigen, inniger Erinnerung an Ihren seligen Mann kommt. Ich habe jetzt fast schlechtes Gewissen, daß ich immer so schreibfaul war. Auch habe ich neulich die ausführliche Bibliographie K. L. vom Verlag Felix Meiner im Auftrag von Ihnen erhalten, dafür seien Sie herzlich bedankt! Ich bewundere um so mehr die Fruchtbarkeit von Prof. Löwith. In Japan übt er auf das Publikum wirklich viel Einfluß aus und wird viel gelesen. Aber von japanischen Übersetzung finden in Wirklichkeit fast nur Publikationen von Iwanami beständigen und größeren Absatz. Andere Verleger haben selten Erfolg. In Philosophie interessierte kleine Verlage in Japan sind finanziell immer in schlechtem Zustand. Sie sind meistens im „Fahrrad-Betrieb“, wie bei uns gesagt wird: ein Radfahrer fällt nämlich nicht solange er fortfährt. Kleinere japanische Verleger machen immerfort neue Veröffentlichungen, um nicht kaputt zu werden. Manche Publikation wird kaum veröffentlicht und bald erlischt sie wie ein Feuerwerk. Die meisten Verlage sind noch nicht modernisiert und rational organisiert, bezahlen oft sehr unregelmäßig. Iwanami und andere wenige Verlage sind Ausnahmefälle.

Der Verlag Miraisha ist sehr eifrig, Prof. Löwith zu publizieren, und hat auch fleißige und ernste Leser. Die Bemühung des Verlags ist lobenswert, aber belohnt sich nicht immer gut genug. Eine Auflage beträgt manchmal nur 500 bis 1000 Exemplare. Ich als Übersetzer, habe während der letzten 20 Jahre, nach meiner flüchtigen Notiz, durchschnittlich 35,000 Yen im Jahre als Honorar bezahlt. Ich werde gelegentlich beim Verlag darum anfragen.

Ich sollte diesen Brief noch früher schreiben, aber dazu konnte ich nicht leicht kommen. Ich muß zu Hause viel Ruhe haben, um draußen rüstig scheinen zu können. Noch manches kommt dazu. Ich mußte in den letzten Wochen mit der Verbesserung und Druckprobe meiner Undine-Übersetzung beschäftigt sein. Ein Schwager meiner Frau starb neulich an Leukopenie, nachdem er über 2 Monate lang mit der Krankheit schwer gekämpft hatte. Meine ältere Tochter, die in Hiroshima wohnt, kam mit zwei Söhnen um die Frühlingsferien bei uns zu bleiben. Der ältere Junge (12 Jahre) hat seltene Begabung in Musik und Mathematik, er komponiert schon bevor er in die Schule ging. Er schreibt augenblicklich besonders gern in Dodekaphonie oder Ganztonskala.

Leider ist er von Hause aus sehr schwach, hat im letzten Jahr 90 Tage in der Schule gefehlt. Er läuft immer Opa nach und fragt um alles Mögliche. u. s. w. u. s. w.

Seitdem ich 1972 wegen der Altersgrenze von der Tohoku-Universität abgetreten bin, unterrichte ich an einem TH in dieser Stadt drei Tage in der Woche ABC des Deutschen. Auch das dauert nur noch bis März nächsten Jahrs. Dann werde ich viel Muße haben od. haben müssen, solange ich leidlich gesund bin.

Nochmals sage ich meinen aufrichtigen Dank für Ihre freundliche und generöse Bestimmung betreffs des Honorars. Ich wünsche Ihnen angenehme Gesundheit! Schonen Sie besonders die Augen! Meine Schrift ist diesmal hoffentlich groß und klar genug für Ihre Augen?

Ihr ergebener

J. Shibata (署名)

(翻訳)

謹啓 レーヴィット夫人、

2月1日に差し上げました手紙に、ご親切な返答を頂き、衷心より感謝申し上げます。貴信を2月12日に感激して拝読致しました。と申しますのは、奥様の寛大なご指示が、今は亡きご夫君に対する奥様の誠実な、敬虔な追憶に発したものであると考えたからです。小生はいま、あいも変わらず筆不精でありましたこと、慙愧に耐えないほどです。小生も最近K. L.の詳細な文献一覧をフェリックス・マイナーから受け取りました。本当にありがとうございます。レーヴィット教授の業績の實りの豊かさにいまさらながら感嘆しております。我が国で教授は読書界に実に多大な影響を及ぼしており、多く読まれております。しかしながら、日本で安定してある程度の規模の売れ行きを示しているのは実のところほとんど岩波の出版物ぐらいのものなのです。他の出版社が成果をあげることは稀です。哲学の分野に関心を示す日本の弱小出版社は、資金的には劣悪な状況にあるのが常です。たいていは、日本で「自転車操業」と呼ばれている状態です。これは、自転車に乗っている人が、こぎ続けないと倒れてしまうことから来たことばです。日本の小出版社は倒産しないために次々に新刊を出しているのです。刊行にこぎつける前に花火のように消えてしまう出版物も少なくありません。たいていの出版社はまだ近代化されておらず、運営に合理性を欠いており、支払いが定期的になされないこともしばしばです。岩波と、他の少数の出版社だけが例外なのです。

未来社はレーヴィット教授の出版にとっても熱心で、勤勉誠実な読者をかかえております。この出版社の骨折りは賞賛に値しますが、必ずしも十分な収益を上げてはなりません。一度の版が500から1000部にしか達しないことも時折あります。小生は訳者としてこの20年で、ざっと計算してみたところでは年平均で35,000円ほどを報酬として受けています。折を見て出版社に問い合わせしてみようと思えます。

本状はもっと早くに差し上げるべきでしたが、なかなか容易ならざることがございました。小生は外で矍鑠として振舞うためには、家でたくさん休まなければなりません。それに加えていろいろなことがありました。この何週間かは小生のウンディーネの翻訳の改訳と校正刷りに

取り組んでおりました。妻の方の義理の兄弟で、最近2ヶ月の厳しい闘病生活の果てに白血球減少症で亡くなった人がいました。広島に住んでいる上の娘が春休みに息子二人と一緒に拙宅に来ておりました。上の孫(12歳)は音楽と数学に稀有の才能を持っていて、学校に上がる前から作曲をしておりました。目下十二音階あるいは全音階で作曲するのが好きです。しかしながら生まれつき蒲柳の質で、昨年は年に90日学校を休みました。この子はいつも祖父について回って何かから何まであれこれ尋ねようとします、等々等々。

小生は1972年に定年で東北大学を退官して以来、ある工業大学²²⁾で週に3時間ドイツ語のABCを教えております。これも来年の三月まででお仕舞です。そのあとはたくさん暇ができます、と申しますよりは、何とか健康でいるうちは閑居しなければなりません。

報酬の件に関しまして、奥様の寛大なご処置に改めて感謝申し上げます。お達者でお過ごしくださいませう。とくに目をお大切に。小生の字は、今回は奥様のお目にも十分大きくはつきりしていましたでしょうか。

謹白

柴田治三郎

柴田 3-10 レーヴィット夫人 昭和53年3月3日柴田宛(タイプ稿)²³⁾

(翻刻)

Heidelberg, 3. März 1980

Lieber Herr Shibata!

Sie haben mir auch dieses Jahr mit dem schönen Kalender eine ganz grosse Freude gemacht. Ich möchte mich herzlich dafür bedanken. Entschuldigen Sie, dass mein Dank so spät kommt. Meine Augen werden natürlich nicht besser, sondern langsam schlechter. Deshalb kann ich nicht mehrere Stunden hintereinander lesen oder schreiben. Immer liegen viele Briefe meinem Schreibtisch, die beantworten sollte. Wie geht es Ihnen und Ihrer Familie? Hoffentlich ist das Jahr 79 gut verlaufen und auch Sie hatten keine schwere Krankheit. Ob Sie so wie früher noch in Sendai leben zusammen mit Ihrer lieben Frau? Es sind jetzt bald schon acht Jahre, seit ich meinen lieben Mann nicht mehr habe. Ich wurde kürzlich sehr lebhaft an ihn erinnert, als wir Herrn Gadammers 80sten Geburtstag feiern konnten. Die Philosophische Fakultät hatte ein sehr grosses und schönes Fest veranstaltet und es waren viele Gäste, aus aller Welt, nach Heidelberg gekommen. Man hatte ein „Kolloquium“ veranstaltet: 4 Vorträge, die alle mit der Einwirkung der klassischen Antiken Philosophie auf die deutsche Philosophie zu tun hatten. Herr Gadammer ist ja ein sehr guter Kenner der klassischen Antike. Dann gab es noch einen 5. Vortrag, von einem jüngeren Mann – sein Name ist Tugendhat – . Dieser sprach über „Klassische und Moderne Ethik“. Er ist ein Vertreter der modernen Sprachanalytischen Philosophie. Ausserdem gab es natürlich eine grosse Zahl von Festreden. Es war auch für mich, obwohl ein bisschen traurig ohne meinen Mann, doch eine Freude, einige der

ganz alten Freunde, aus Studentenzeiten, wiederzusehen. Gadamer ist in sehr guter Gesundheit, obwohl er mit dem Gehen Schwierigkeiten hat. Geistig ist er so frisch wie er eh und je. Jetzt möchte ich noch ein Wort sagen über Ihren schönen Kalender. Wie immer hatte ich mir bereits hier einen kleinen gekauft. Denn mein Gedächtnis ist nicht mehr wie in den jungen Jahren und ich schreibe mir seit einiger Zeit alle Verabredungen usw. auf. Aber die Grösse Ihres japanischen Kalenders und der gute deutliche Druck macht ihn für mich besonders geeignet. Und an den Bildern freue ich mich jedesmal. Es wäre schön, lieber Herr Shibata, wenn wir beide noch einige Jahre in guter Gesundheit erleben könnten und wenn ich von Ihnen noch mehrere dieser schönen Kalender empfangen dürfte. Bitte bleiben auch Sie recht gesund und nehmen Sie nochmals meinen herzlichen Dank.

(以下 2 行自筆) Ihre

Ada Löwith

(翻訳)

ハイデルベルク、1980年3月3日

拝啓柴田様！

今年もきれいなカレンダーを送ってくださって大喜びしています。御礼がこんなに遅れてしまってます。私の目はもちろんよくなることはなく、ゆっくり悪くなっています。それで何時間も続けて読んだり書いたりはできません。私の机の上には返事をしなければならない手紙がいつでもたくさん載っています。

あなたとご家族はいかがお過ごしですか。79年を恙無くお過ごしになり、あなたも重い病気などにかかっているなければいいのですが。以前同様、仙台で奥様と暮らしていらっしゃいますか。夫を亡くしてから、早いものでまもなく8年になります。最近ガーダマーさんの80歳の誕生日をお祝いしたときに、夫のことがとても生き生きと思い出されました。文学部がとても盛大な祝賀会を催して、世界中からはるばる、お客さんがたくさんハイデルベルクにやってきました。「コロキウム」が開催され、講演が4本ありましたが、みな古典古代哲学のドイツ哲学に対する影響に関するものでした。ガーダマーさんは古典古代にかなりよく通じていらっしゃいますから。それから5番目に講演がありました。若い方で、お名前はトゥーゲントハットといいます。「古典時代と現代の倫理学」についてのお話でした。この方は現代の言語分析哲学を代表する一人です。そのほか、もちろん祝辞がたくさんありました。夫がないのが少々悲しくはありましたが、ずっと昔の、学生時代からの旧友に再会できたのは、私にとってはうれしく存じました。ガーダマーは歩くのが少し大変ですが、とても元気です。精神的には、相変わらずの若々しさです。

あなたのきれいなカレンダーについてここでまた申し上げます。いつもどおり、こちらで私はもう小さいものを一つ買っていました。私の記憶力はもう若い頃のようにはいかないので、しばらく前から約束などを書き付けるようにしていました。ところがあなたの日本のカレンダーの大きさと、はっきりした印刷が、とくに私にはぴったりです。そしてめくるたびに絵が楽しめます。柴田さん、私たちが二人とももう何年かを健康で迎えられ、あなたからこういう

きれいなカレンダーをいくつももらうことが許さればすばらしいと思います。

あなたもどうかお元気で。本当にありがとうございました。

敬具

アーダ・レーヴィット

柴田 3-11 柴田治三郎 昭和 56 年 3 月 6 日レーヴィット夫人宛²⁴⁾

(翻刻)

Sehr verehrte Frau Löwith!

Gestern habe ich Ihren werten Brief erhalten. Den deutschen Text vom „europäishcen Nihilismus“ habe ich am 2. d. M. an Herrn Stichweh mit Luftpost abgeschickt. Er wird ihn hoffentlich doch zeitig genug erhalten haben. Das Ausgraben & Nachsuchen in meiner ungeheizten Bücherstube od. Rumpelkammer verzögerten sich wegen meines nicht so starken Körpers & der ungewöhnlichen Kälte dieses Winters & dazu eines dazwischen passierten Unglück im Haus meines Bruders. Ich bitte Sie vielmals um Verzeihung, dass ich Sie veranlasste, trotz Ihrer kranken Augen an Kawahara& mich eigens zu schreiben.

Ich gratuliere Ihnen zum Erscheinen der sämtlichen Schriften vom seligen Prof. Löwith, freue mich vom herzen darauf und hoffe auf gerechten Erfolg davon, vor allem für Sie.

Ich wurde schon vor 10 Jahren wegen Altersgrenze von der Tohoku-Uni. emeritiert & jetzt unterrichte 3 Stunden in der Woche an einer Privathochschule den Anfang deutscher Sprache.

Wir, nämlich meine Frau & ich, sind im allgemeinen gesund, abgesehen von unangenehmen Ohrensausen bei meiner Frau & hohem Blutdruck bei mir. Wir leben mit einem von 5 Enkeln, dem 14-jährigen, zusammen, der unbedingt bei Opa & Oma, nicht bei Eltern, leben will. Das allein fällt uns zur schweren Last bei wachsenden Alter. Wir sind schon über siebzig.

Ich habe im vorigen Jahre bei Iwanami-Verlag „Mozarts Leben in seinen Briefen“ in 2 Bändlein mit viel Anmerkungen, einem Nachwort & allerei Registern erscheinen lassen, & nicht wenig Echo gefunden. Infolgedessen wurde ich vom Verlag mit dem Schreiben eines Mozart-Büchlein beauftragt. Anschliessend daran kommt ein Bach-Büchlein. Gott begnade mich mit dem Leben dazu! Ich selber liebe Bachs Musik viel mehr als Mozarts. In Japan ist aber die letztere viel beliebter beim Publikum.

Die Stadt Sendai ist während letzten 10 Jahren ganz anders geworden als die, die Sie sich vielleicht vorstellen können (obwohl Prof. Löwith sagen würde: „Sendai verändert sich wesentlich nicht!“). Bis Tokio dauert es jetzt mit Schnellzug 4 Stunden. Wenn im nächsten Jahre sogenantes Tohoku-Shinkansen (neue Hauptbahn) fertig gebaut ist, dauert es nur 2 1/2 Stunden. Sendai wird allmählich eine Vorstadt von Tokio. Wenn ich vom Hügel jenseits von Hirosegawa (an dessen Ufer Ihre Wohnung damals stand) auf die Stadt herabblicke, verwundere ich mich, in welcher Stadt, ja in welchem Land der Welt ich mich befinde. Lauter Betongebäude, kunterbunt. Nur im Verkehr mit Menschen glaube ich immer noch etwas Typisch-Japanisches doch zu finden, was man aber schwer

beschreiben kann.

Ich wünsche von Herzen, dass Sie Ihre Augen schonen & sich lange einer guten Gesundheit erfreuen!

Mit herzlichen Grüßen

Ihr J. Shibata

(翻訳)

謹啓 レーヴィット夫人

昨日貴信拝受いたしました。『ヨーロッパのニヒリズム』のドイツ語のテキストは今月の2日にシュティヒヴェー氏宛航空便でお送り致しております。氏が十分間に合うように受け取られるようだといいのですが。小生の暖房のない書庫やガラクタ置き場で探し物や発掘をするのは、小生の虚弱なからだとその冬の異常な寒さに加えて、私の兄弟の家に起きた不幸のために延び延びになっていました。目がお悪いのに、小生と川原宛にわざわざお便り下さるようなご迷惑をおかけしてしまい、まことに恐れ入ります。

故レーヴィット教授の著作全集の刊行おめでとうございます。心からお喜び申し上げ、とりわけ奥様のためにも、しかるべき売れ行きが上がることを願っております。

小生はもう10年も前に定年で東北大学を退官し、週に3日、私立大学でドイツ語の初歩を教えております。

私ども、即ち妻と小生は、妻の不快な耳鳴りと小生の高血圧を除いては、概ね健康です。私どもは5人いる孫のうちの14歳の一人と一緒に暮らしております。この子は両親のところではなく、どうしてもおじいちゃんおばあちゃんと一緒に住みたいというのです。これだけでも、年を重ねた私どもには大きな重荷です。私どもはもう70歳を超えました。

昨年小生は岩波書店から『モーツァルトの手紙 その生涯のロマン』を、注釈を多数、それに後書きと様々な目次をつけて文庫本2冊で出しました。反響は少なくありませんでした。引き続き書店からモーツァルトに関する小冊子の執筆を依頼されています。その次はバッハの小冊子です。神がそのための時間をお恵みくださいますよう！小生自身はバッハの音楽のほうがモーツァルトのものよりもずっと好きです。ところが日本ではモーツァルトのほうが聴衆に愛されています。

仙台の街はこの10年で、奥様があるいはご記憶なさっておられること存じます、そのような街とはすっかり変わってしまいました（レーヴィット教授なら「仙台は本質的には何も変わらない！」と仰るところでしょうが）。東京までは、今は特急で4時間です。来年いわゆる東北新幹線（新しい基幹鉄道）が竣工すれば、2時間半しかかからないようになります。仙台は徐々に東京の周辺都市になりつつあります。広瀬川（この岸边にご夫妻のお住まいがありました）の対岸の丘から街を見下ろしますと、小生はどこの街にいるのか、世界のどこにいるのかわからなくなります。コンクリートの建物ばかりで、雑然としています。それでも、人と付き合っているといまだに典型的に日本的なものが少々見つかりますが、これはことばでは曰く言いがたいものです。

お目をいたわり、長く健康を享受されますことを心より願っております。

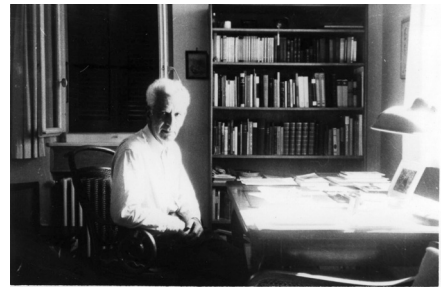
謹白
柴田治三郎



柴田 3-12



柴田 3-13



柴田 3-14



柴田 3-15



柴田 3-16



柴田 3-17



柴田 3-18

註

- 1) 東北大学史料館助教。「1. 資料の概要」執筆担当。
- 2) 東北大学大学院国際文化研究科教授。「2. 資料の内容」執筆担当。
- 3) 以下の記述はおおむね、『大日本帝国の戦争1 満州国の幻影』(毎日ムックシリーズ 20世紀の記憶) (毎日新聞社、1999年) 所収の川原栄峰・中川秀恭両氏の文章に拠る。
- 4) レーヴィットの米国行をめぐる小宮封書(柴田文書 1-11) や河野葉書(4-30) などがそれに当たる。拙稿「小宮豊隆と戦争」(『東北大学史料館紀要』4、2009年) も参照願いたい。その他、柴田文書 1-80、4-2、4-20、4-146 ~ 148、4-165 ~ 168、4-170、4-171、4-214、4-215、4-218、4-219、4-227、4-253 にレーヴィットの名前が見える。
- 5) レーヴィットは *ü* のように書いて *ü* を、*u* のように書いて *u* をあらわす。このような書き方は当時のドイツ語圏の様々な人々の手稿に散見されるものである。
- 6) レーヴィットは *m* の上に横棒を引いて *mm* の代用をすることがある。本状では *bekomen* の *m* がそうになっているが、翻刻ではこれを通常の *bekommen* にしてある。以下の各書状でも同様の処置をした。
- 7) 本状のイタリックは、インクの退色のため鈴木が推定して補ったことを示す。
- 8) *l' intelligenze* はフランス語ならば正しくは *l' intelligence* と書かれるべきで、原著もそのようになっている。
- 9) 高山は宮城県七ヶ浜町の海岸にある高山外国人避暑地。
- 10) 「なおかつ」または「そして」、「と」の意味で+の記号が何度か用いられている。
- 11) 『知性の将来』(1905) はフランス右翼の作家・評論家シャルル・モラス(1868-1952) の評論。1927年に改版されている。
- 12) 原文はイタリア語で *piano piano*。レーヴィットは来日前年までロックフェラー奨学生としてイタリアに留学していた。
- 13) 原文の *dandan* は日本語。
- 14) 本状のイタリック部分はインクの落ちのために鈴木が推定した。
- 15) 本状のイタリック部分もインクの落ちのために鈴木が推定した。下線部とミセケチはレーヴィット自身による。
- 16) レーヴィットがドイツとの同盟を強めた日本に滞在できなくなり、アメリカにわたったのは1941年のことである。
- 17) 「ことを台無しにする」の意。
- 18) 【 】内は便箋のヘッダー。レーヴィットの文字ではない。
- 19) 本状のイタリック部分は、インクの退色のため鈴木が推定している。
- 20) 本状ではタイプミスによる語間のスペースの消失を適宜補った。但し *garkeine* や *garnicht* 等のような意図的な表現は残した。
- 21) 本状ではインク消失などによる少数の文字欠落等を推定により補った
- 22) 東北工業大学。
- 23) 明らかなタイプミスを訂正した(イタリック部分)。
- 24) 本状は *B* を用いず *ss* と表記する、*m* の上に横線を引いて *mm* に代用する、また小さい筆記体を用いるなど、まるで一部レーヴィットの書体と筆跡を模倣したようなところがある。これより前の柴田の書簡では、レーヴィット夫人の目を気遣って大きい文字で書かれていたが、本状はそれとは異なる。本状でもわずかなインクの消失箇所を推定して補った(イタリック部分)。